

令和5年度の学校評価

本年度の重点目標		<p>1 スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の具体的な実施</p> <p>2 新学習指導要領とICT教育の効果的な推進による授業と評価の改善</p> <p>3 個に応じた学習指導・生徒指導・道徳教育・教育相談の推進</p> <p>4 地域連携と生徒募集の充実に向けた情報発信力の強化</p> <p>5 校内諸規定の整備と見直し</p> <p>6 教職員がやりがいと働きやすさを両立できる環境の整備</p>
項目	重点目標	<p>具体的方策</p> <p>留意事項</p>
スクール・ポリシーの具体化	<p>・スクール・ポリシーを踏まえた教育活動を具体的に実施する。</p>	<p>ア スクール・ポリシーのうち「(1)目指す生徒像」「(2)本校における学び」については、各学科、教科、学年、分掌等に関係する箇所を確認の上、具体化させる。</p> <p>イ 地域連携に関する事項については「総合的な探究の時間」における新たな扱いを令和5年度入学生から実施する。</p> <p>ア 各分掌と学年の目標や取組の内容はスクール・ポリシーとの関連性を意識したものとする。</p> <p>イ 「総合的な探究の時間」の地域に関する項目については、実施初年度であるので、早めに計画し、実施後には検証を行う。</p>
新学習指導要領とICT教育の推進	<p>・新しい学習指導要領に則った授業と評価を実施する。</p> <p>・ICT機器の効果的活用を進める。</p>	<p>ア 新学習指導要領の実施が2年目を迎えたことを踏まえ、昨年度の課題の検証とそれに対応した改善を進める。</p> <p>イ あいちラーニング推進事業の重点校指定2年目として、全ての教科・教員がICT活用を行えるようにする。生徒用タブレット等を活用し、学習指導要領の趣旨を生かした教育活動を一層推進する。</p> <p>ウ 生徒用タブレットの持ち帰り実施により、活用の幅を広げるとともに、予想される様々な課題への対応を講じていく。</p> <p>ア 授業改善と評価の在り方については、要領の趣旨に則っていること、生徒の変化や実態に合ったものとする。</p> <p>イ ICT機器の活用については個人単位だけでなく、活用法の共有化を図る。</p> <p>ウ 生徒用タブレットの持ち帰りを踏まえ、課題の配信や集約など幅広い活用を目指すとともに、実施に伴う問題点への対応を迅速に進める。</p>
個に応じた指導の推進	<p>・学習指導、生徒指導、道徳指導、教育相談など教育活動全般にわたり推進する。</p>	<p>ア 全ての指導において、従来の全体指導、一斉指導中心のものから生徒個々の実態に応じたもの、個別最適化したものとしていく。</p> <p>イ 社会や生徒の変化に対する教員の対応力を高めるため、現職研修等の機会を積極的に活用する。</p> <p>ウ 「地域の未来を創る 人材育成事業（道徳教育推進事業）」の指定事業を活用した効果的な指導を展開する。</p> <p>ア 事案ごとの個別対応が増えることに対応できるように、教員同士の情報交換や共有を積極的に進める。</p> <p>イ 最新の生徒指導のあり方に関して現職研修の機会などを通じて教員のスキルアップを図る。</p> <p>ウ 指定事業を活用して有効な指導体制を構築する。</p>
地域連携と情報発信力の強化	<p>・地域連携をこれまで以上に強化する。</p> <p>・情報の受け手側に立った発信を行う。</p>	<p>ア 「地域の未来を創る人材育成事業」の指定を受け、「総合的な探究の時間」及び総合ビジネス科での「課題研究」における地域連携を一層推進する。</p> <p>イ ホームページにおける地域や中学生の求める情報をタイムリーに発信する。また、SNS等を活用した情報発信の可能性を探る。</p> <p>ウ 生徒募集の観点に立ち、体験入学、学校説明会、公開授業、中学校訪問、県立高校フェスタ等のより効果的な実施を目指す。</p> <p>ア 既存の行事や取組を活用しつつ、教育的な意義や方法を確認し有効なものとする。</p> <p>イ 情報の受け手側の立場に立ち、望まれる情報を発信する。</p> <p>ウ 従来の方法や相手、発信方法にとどまらず、本校への入学を希望する生徒が増加するよう常に新たなものを考え、実行していく。</p>
校内諸規定の整備と見直し	<p>・現在の内規の整理・確認と継続的な見直しを進める。</p>	<p>ア 各分掌等における現行の規定の整理・確認と検証を行い、全職員が常に確認できるようにするとともに、時代の変化に対応した改廃を進める。</p> <p>イ 服装規定に関して制服改定に向けた準備とアフターコロナに向けた運用の見直しを進める。</p> <p>ウ 近年改定した生徒指導に関する諸規定の検証及び継続的な見直しを進める</p> <p>ア 内規を各担当教員だけではなく、常に全職員が確認できる状態にする。</p> <p>イ 服装規定に関して、コロナ対応によるものと中期的な生徒指導上のあり方に関するもので整理して対応する。</p> <p>ウ 社会情勢の変化を踏まえて検討していく。必要に応じ外部の意見を聞く。</p>
やりがいと働きやすさを両立した環境の整備	<p>・教育的効果とやりがい、働き方改革をバランスをもって実施していく。</p>	<p>教員の働き方が教育的効果とやりがいを持ちつつ多忙化解消につながるものができるよう具体的な検討と取組を進める。単に手間を省くのではなく、必要に応じて足りないものを充実させることも検討する。</p> <p>・教員の働き方改革の方向性を大切にしつつ、教育機関としての使命や生徒の成長に資する観点を常に意識する。</p> <p>・小さなことでも実現可能なことから実行にて移していく。</p>

学校関係者評価を実施する 主な評価項目	1 スクール・ポリシーの具体化 2 新学習指導要領とICT教育の推進 3 個に応じた指導の推進 4 地域連携と情報発信力の強化 5 校内諸規定の整備と見直し 6 やりがいと働きやすさを両立した環境の整備
------------------------	--

前年度の学校評価

(1) 自己評価結果等

本年度の重点目標		1 新しい学習指導要領に則った授業と評価の実施 2 スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の具体的な実施 3 自他ともに大切にする生徒の育成のために教育相談的な視点に立った指導の実施 4 生徒用タブレット等のICT機器を活用した教育活動の本格的な実施 5 コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築 6 学校の規定等が時代や社会情勢の変化に対応したものであるかの検証と見直し 7 地域との協体制の強化と学校の諸活動に関する積極的な情報発信 8 令和5年度入学者選抜の円滑な実施に向けての準備 9 多忙化の解消に向けた業務内容の点検・精選と効率化	
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
新学習指導要領の実施	新しい学習指導要領に則った授業と評価の実施	ア 各教科において新指導要領に則った指導計画の立案をし、授業を実施していく。 イ 評価の観点を適切に設定し、計画的に評価に向けた準備を行う。 ウ 学期末、学年末における評価を適正に実施する。	ア 愛知県様式の「学習指導マネジメントシート」を活用して授業計画の立案を行った。引き続き、新学習指導要領を踏まえた授業改善を進める必要がある。 イ 1年生で、大きな問題なく、新たに観点別評価を導入することができた。 ウ 3観点のうち「主体的に学習へ取り組む態度」の適切な評価が難しく、引き続き改善の必要がある。
スクール・ポリシーの具体化	スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の具体的な実施	ア スクール・ポリシーのうち「(1)目指す生徒像」「(2)本校における学び」については、各学科、教科、学年、分掌等に関係する箇所を確認の上、具体化させる。	ア 教務：観点別評価に対応した考查問題に移行することで、知識・技能・思考・判断・表現の各観点の力を測ることで、互いに高め合う対話的・論理的な学びを進めることができた。 生徒指導：自他の生命と尊厳を育むために、薬物乱用防止、交通安全講話を実施した。規範意識の高揚にも一定の成果があった。 生徒会：学校行事を通して、人格の形成や自ら課題を解決できる力の育成を図ることができた。また、部活動では、互いに切磋琢磨し心や体を鍛える場を設けることができた。 進路指導：学部学科説明会や大学出前講義、進路ガイダンス、インターンシップの実施により、具体的な目標や将来の展望をもたせ、夢を実現する学びを行うことができた。 保健厚生：清掃活動やハンギングバスケット作りなどの環境美化活動を通して、人間力と規範意識を高め、地域社会に貢献する生徒の育成を図ることができた。 研修：個別指導において第一閲覧室の利用を進める等、指導場所の提供を図るとともに、夢を実現する学びのために進路関係図書の実用を図ることができた。 総合ビジネス：地域のイベント（大浜でらまちウォーキング、あおいパーククリスマスイベント）に積極的に参加し、地域や企業と

		<p>の連携につながった。今後も良き社会人として地域で活躍できる生徒を育てていきたい。</p> <p>1年：福祉実践教室の実施により、自他の生命と尊厳を大切にしながらよりよく生きることについて学ぶことができた。</p> <p>2年：学部学科説明会や大学出前講義を行いながら個別面談を行い、進路希望を絞り込ませるとともに目標をもって学習に取り組みせる機会を設けることで、やる気と好奇心を持ち続け、夢を実現する学びを行った。</p> <p>3年：消費者教育を実施し、消費者として必要な知識を身につけるとともに、消費者としての権利や責任について学習し、人間力と規範意識を高めることができた。</p>	<p>イ 地域連携に関する事項については「総合的な探究の時間」における新たな扱いを検討し、令和5年度からの実施に向けた準備を行う。</p> <p>ウ スクール・ポリシーの「(3)入学を期待する生徒像」を地域の中学生等に周知する。またホームページや印刷物等で周知する。</p>	<p>イ 令和5年度の「総合的な探究の時間」では、地域の歴史や産業調べ等を新たに導入するとともに、地域の方を招いての講演を行うことで、地域社会を支えることのできる生徒の育成を図りたい。</p> <p>ウ ホームページや学校案内にスクールポリシーを掲載した。また、ホームページの更新を多くし、学校案内を全面改定する等、積極的にアピールすることができた。</p>
<p>自他ともに大切に する生徒育成の ための教育 相談的な指 導</p>	<p>自他ともに大切に する生徒の育成 のために教育 相談的な視点 に立った指導 の実施</p>	<p>ア 生徒に対して自他の命や心身の健康の大切さを考え、理解させる機会を設定する。</p> <p>イ 生徒の問題行動に対して表面的な指導にとどまらず、背景についても理解するよう努め、より効果的なものとする。</p> <p>ウ 生徒指導部と教育相談の一層の連携を図り、対応を進める。</p>	<p>ア 本年度新たに保健教育LTでがん教育を行い、健康の大切さを考え理解させる機会を設定できた。また、情報モラル、人権講話等は、講師依頼先を工夫し、自他ともに大切に する心の醸成を図ることができた。</p> <p>イ 問題発生時の調査・確認の際には、可能な限り複数教員であたり、より多面的に問題に対して対処するようにした。また、指導経過を記録する様式を作成し、継続的に一貫した指導ができるよう工夫した。</p> <p>ウ スクールソーシャルワーカーに講師を依頼して研修会を行うことで、生徒指導・生徒相談の進め方についての共通理解を深めることができた。特別支援教育委員会等では、個々の生徒の情報共有を確実に行った。また、いじめ等のアンケートにおいて得られた情報を、担任・学年主任・生徒指導部・教育相談で共有し、迅速に対応できた。</p>	
<p>生徒用タブ レット等の ICT機器 の本格的活 用</p>	<p>生徒用タブレット 等のICT機器 を活用した 教育活動の 本格的な実 施</p>	<p>ア 教員の個人単位での活用にとどまらず、各教科や学年で組織的に活用する。</p>	<p>ア 本年度、「あいちラーニング推進事業」の重点校指定を受け、国語・数学・理科においてはICT機器の活用について研究を進めたうえで、公開授業を実施した。次年度は全ての教科での研究を推進していく。</p> <p>また、学年においても総合的な探究の時間等でタブレットを使用し、ロイロノート・Teams等を活用することで効果的な学習になるよう努めることができた。</p>	
		<p>イ 中長期的な視点で効果や課題などを共有し、改善につなげる。</p>	<p>イ ICT機器の活用は内容・範囲とも、まだ発展途上である。更に効果的な活用法の研究を引き続き行いたい。本年度、アクセスポイン</p>	

		<p>ウ 活用法、操作方法を教員が学ぶ研修その他の機会を設定する。</p>	<p>トの増設により通信環境の改善はできた。今後は、特別教室の通信環境の改善を進めていきたい。また、タブレットの生徒へ配付に向けた準備を進めている。</p> <p>ウ 「あいちラーニング推進事業」の重点校指定の公開授業で、教科間での情報共有ができた。また、ICT支援員によるTeamsを利用するための研修会を実施した。今後さらに、ポイントを押さえた研修会を実施していく必要がある。</p>
<p>コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築</p>	<p>コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築</p>	<p>ア 過去の臨時的な対応の継続ではなく、効果的で継続性のあるものにする。</p> <p>イ 行事の場所・実施時期・時間・準備等総合的に検討をする。</p>	<p>ア 全校集会については、一部を体育館で実施することができた。今後も感染状況を見ながら、リモートでの実施や事前に撮影した映像を教室で再生する方式等、状況に応じて実施していきたい。球技大会や体育祭は従来の形に近づけることができた。総合ビジネス科の各種取組（インターンシップ・あおいパークイベント等）も感染状況を見ながら、ほぼ従来の形で実施することができた。</p> <p>イ 本年度の行事（碧高祭・修学旅行等）の実施場所や方法は、感染状況を見ながら従来の形に近づけることができた。</p>
<p>時代や社会情勢に対応した学校の諸規定の検証と見直し</p>	<p>学校の規定等が時代や社会情勢の変化に対応したものであるかの検証と見直し</p>	<p>ア いわゆる「校則問題」への対応について継続的に検討を進める。</p> <p>イ 教務部、進路指導部を中心とした各種規定について、その課題を検証し、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>ウ 制服検討委員会において制服の改定に向けた話し合い・検討を進める。</p>	<p>ア 生徒手帳に記載されている生徒心得の見直しを実施した。代表生徒やPTAからの意見を聞く機会を設けるとともに、今後、改定する際の道筋を立てた。</p> <p>イ 教務関連では観別別評価を導入したが、共通理解ができていない部分もあり、継続的に検証と見直しを行う必要がある。進路指導関連では推薦入試の校内規定の見直しを行うとともに、推薦規定と指定校推薦を公開した。</p> <p>ウ 9回にわたって制服検討委員会を開き、新しい制服の検討を行った。生徒・保護者からも意見を聞き、制服検討の参考とし、基本的なデザインについて決定することができた。</p>
<p>地域との協力の強化と情報発信</p>	<p>地域との協力体制の強化と学校の諸活動に関する積極的な情報発信</p>	<p>ア 「総合的な探究の時間」において地域連携に関する内容を取り入れ、令和5年度以降の実施に備える。</p> <p>イ 実施や案内を行うタイミング、ホームページや学校案内等の印刷物の内容、デザイン、掲載や配布する時期について生徒募集につながるように計画、実施する。</p> <p>ウ 行事や部活動など生徒の活躍する写真や動画の資料を積極的に作成・収集し活用する。生徒の活躍について報道等への情報提供を積極的に行う。</p>	<p>ア 令和5年度の「総合的な探究の時間」では、地域の歴史や産業調べなどを新たに導入するとともに、地域の方を招いての講演を行うよう準備を進めている。</p> <p>イ 学校案内の全面改訂を行い、より本校をイメージしやすいものとした。また、発行部数を増やし、近隣中学校生徒の手に渡るよう、各主任による中学校訪問にて配布を行った。</p> <p>ウ ホームページの碧高トピックスとして、生徒の活動をタイムリーに掲載し、積極的に情報発信することができた。</p>
<p>令和5年度入学者選抜実施に向けた準備</p>	<p>令和5年度入学者選抜の円滑な実施に向けての準備</p>	<p>ア 選抜のあり方、内容、運営について、課題点を洗い出し、職員の共通理解を図る。</p> <p>イ 特別選抜の実施に向けて、準備を進める。</p>	<p>ア 選抜制度の大幅な変更となっているが、試行等を通じて、課題等を確認することができた。</p> <p>イ 新しい選抜制度であることを踏まえ、当日円滑に行われるよう、更に綿密な計画を立てていきたい。</p>
<p>教員の多忙化解消</p>	<p>多忙化の解消に向けた業務内容の点検・精選と効率化</p>	<p>ア 各分掌等が所管する業務内容の見直しを行い、可能な限りスリム化・マニュアル化を進める。</p>	<p>ア 本年度より、出欠連絡アプリを導入し、朝の電話対応を大幅に減少させることができた。多くの分掌で業務内容をコンパクトにした</p>

		<p>がら、主担当を決めて業務を割り振りつつ、全体で協力して実施する体制作りを推進できた。今後も更に、業務の偏りを解消できるよう取り組む必要がある。また、採点ソフトの導入に向けた試行を行っている。一部の学年・教科ではTeamsの活用により、打ち合わせ等の時間を短縮し、業務の効率化や紙の使用量の削減を進めることができた。職員室の施錠時刻の目標を午後7時とし、職員の在校時間の短縮を進めることができた。</p>
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領の実施 2 スクール・ポリシーの具体化 3 自他ともに大切にする生徒育成のための教育相談的な指導 4 生徒用タブレット等のICT機器の本格的活用 5 コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築 6 時代や社会情勢に対応した学校の諸規定の検証と見直し 7 地域との協力の強化と情報発信 8 令和5年度入学者選抜実施に向けた準備 9 教員の多忙化解消 	
<p>本年度の重点目標についての自己評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領が実施された第1学年では、「学習指導マネジメントシート」を活用することによりスタートを切ることができた。観点別評価についても前年度からの研究が生きた形となっている。「あいちラーニング推進事業」を踏まえた授業改善や評価方法の見直しは、今後も継続的に行っていく必要がある。 2 各分掌・学年等でスクールポリシーを踏まえた取り組みが進められた。これは教育活動全般にわたるものであり、次年度以降もより効果的な手立てを工夫し続けていかなければならない。 3 個々の生徒の状況把握と問題点の共通理解について、特別支援教育委員会をよく機能させることができた。またスクールカウンセラーによる講話やスクールソーシャルワーカーの巡回に合わせた研修を実施し「いのち」に関する教育の推進を図った。 4 ICT機器活用に関しては、ハード面での整備が年度末に行われ、一層の活用に向けた準備を進めることができた。一方、本年度から「あいちラーニング推進事業」の重点校指定となり、教科・学年での利用が促進された。 5 碧高祭や球技大会においては、緊急避難的な行事の運営から従来の形に近い効果的な行事を実施することができた。 6 校則及び制服に関しては、昨年度より継続して検討と改定を加え、特に性差による規定等の違いを埋めることができた。また、令和6年度から導入予定の新制服についても基本形を固めることができた。進路指導における推薦規定についても見直しを行い、よりオープンな形にすることができた。 7 ホームページの更新や、学校案内・碧高ニュースなどのパンフレット配布を頻回に行い、情報発信に努めた。また、コロナにより停止していた地域イベントにも多数参加できた。今後、普通科も含めた地域連携にも活動の幅を広げていきたい。 8 全県的な試行と選抜実施要項説明会を受けて、令和5年度選抜の準備を進めている。 9 各分掌において業務の見直しと分業体制の工夫を進め、一定の成果を得た。また、出欠連絡アプリの導入による業務の効率化を図ることができた。更に、職員室の施錠時刻を昨年度より早めることができた。今後、更なる改善に向けて、採点ソフトを導入するなどICTを活用していくことで、一層の業務の効率化を図っていきたい。 		
(2) 学校関係者評価等		
学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領の実施 2 スクール・ポリシーの具体化 3 自他ともに大切にする生徒育成のための教育相談的な指導 4 生徒用タブレット等のICT機器の本格的活用 5 コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築 6 時代や社会情勢に対応した学校の諸規定の検証と見直し 7 地域との協力の強化と情報発信 8 令和5年度入学者選抜実施に向けた準備 9 教員の多忙化解消 	
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でタブレットを積極的に利用するなど、ICTを活用した教育がとても進んでいることに驚いた。 ・生徒は大変落ち着いた雰囲気です。服装や髪型については、高校生らしくたいへん好感がもてる。 ・地元企業と共同で商品（ラーメン）開発を行うなど、地域間連携に積極的に参加する姿勢が見られる。 	
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ポリシーを踏まえた取り組みをさらに進め、人間力を高めていってほしい。 ・様々な問題を抱える生徒もいるが、すべての生徒が卒業できるよう支援して行ってほしい。 ・採点ソフトの導入は良い取り組みである。更に業務の精選・効率化に取り組んで行ってほしい。 	
その他、学校関係者から出された意見、要望	<ul style="list-style-type: none"> ・碧南高校の総合ビジネス科は検定試験の合格者が多い。商工会議所でも表彰をしている。 ・総合ビジネス科の生徒は実践的であり、地元企業で即戦力になる。 ・碧南高校は令和6年度から制服が改定されるが、碧南市内の中学校も近々改定の予定。 	
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ol style="list-style-type: none"> 1 構成…学校評議員5人 2 評価時期…令和5年1月 	